

Survey Methodology

by Robert M. Groves, Floyd J. Fowler Jr., Mick P. Couper, James M. Lepkowski,
Eleanor Singer, and Roger Tourangeau

Wiley Series in Survey Methodology

- John Wiley & Sons, 2004 -

調査法

ハンドブック

大隅 昇

(統計数理研究所名誉教授)

監訳

- グルーズ他著 “Survey Methodology” (John Wiley & Sons, 2004) の全訳。
- 社会調査から統計調査まで、調査方法論の実際に必要な方法論を、総調査誤差パラダイムの基本に基づき包括的に解説。
- 豊富な先行研究やインターネット調査などの最近の調査環境の変化を踏まえた記述。
- 各章末には、研究学習に簡便な、関連キーワードの一覧、演習問題を付す。

A5判 528頁

定価12,600円 (本体12,000円)

ISBN 978-4-254-12184-1 C3041

 朝倉書店

監訳者

大隅 昇 統計数理研究所 名誉教授

翻訳者

大隅 昇 統計数理研究所 名誉教授

松本 渉 関西大学総合情報学部 准教授

氏家 豊 統計数理研究所 特任研究員

村田磨理子 (財)統計情報研究開発センター 主任研究員

鳩 真紀子 フリーランス翻訳者

内容目次

第1章 調査方法論入門

- 1.1 はじめに
- 1.2 調査研究の略史
- 1.3 現行の調査のいくつかの例
全国犯罪被害調査 (NCVS) / 薬物使用と健康に関する全国調査 (NSDUH) / 消費者調査 (SOC) / 全国学力達成度調査 (NAEP) / 行動危険因子監視システム (BRFSS) / 最新雇用統計プログラム (CES)
- 1.4 調査方法論とは何か?
- 1.5 調査方法論の課題
- 1.6 本書について

第2章 調査における推論と誤差

- 2.1 はじめに
- 2.2 設計の観点から見た調査の循環過程
- 2.3 調査の品質の観点から見た調査の循環過程
- 2.4 ここまでのまとめ
- 2.5 いろいろな統計量の誤差の考え方
- 2.6 要約

第3章 目標母集団、標本抽出枠、カバレッジ誤差

- 3.1 はじめに
- 3.2 母集団と標本抽出枠
- 3.3 標本抽出枠のカバレッジ特性
- 3.4 一般的な目標母集団とその抽出枠問題
- 3.5 カバレッジ誤差
- 3.6 アンダーカバレッジの低減
- 3.7 要約

第4章 標本設計と標本誤差

- 4.1 はじめに
- 4.2 標本と推定値
- 4.3 単純無作為抽出
- 4.4 集落抽出法
- 4.5 層別と層別抽出
- 4.6 系統抽出法
- 4.7 実務における複雑さ
- 4.8 米国の電話加入世帯における個人の標本抽出
- 4.9 要約

第5章 データ収集法

- 5.1 データ収集のさまざまな手法
- 5.2 適切な調査方式の選択
- 5.3 さまざまなデータ収集法が調査誤差に及ぼす影響
- 5.4 複数のデータ収集方式の利用
- 5.5 要約

第6章 標本調査における無回答

- 6.1 はじめに
- 6.2 3種類のおもな調査不能
- 6.3 無回答は調査統計量の品質にどのように影響するか?
- 6.4 回答率および非回答率の計算
- 6.5 時間経過ともなう回答率の傾向
- 6.6 項目無回答
- 6.7 調査不能を減らすための調査設計の特徴
- 6.8 要約

第7章 調査における質問と回答

- 7.1 調査測定における代替法
- 7.2 質問への回答における認知過程
- 7.3 調査質問への回答時の問題
- 7.4 適切な質問を作成するための指針
- 7.5 要約

第8章 質問文の評価

- 8.1 はじめに
- 8.2 専門家による吟味
- 8.3 フォーカス・グループ
- 8.4 認知的面接法
- 8.5 予備調査と行動コーディング
- 8.6 無作為化実験あるいはスプリッターバロット法
- 8.7 質問文の基準を適用すること
- 8.8 質問文評価ツールの要約
- 8.9 測定品質の概念と統計的推定値の関連づけ
- 8.10 要約

第9章 面接調査法

- 9.1 調査員の役割
- 9.2 調査員による偏り
- 9.3 調査員変動
- 9.4 調査員の偏りを減らすための戦略
- 9.5 調査員にかかわる変動を減らすための戦略
- 9.6 標準面接法に関する論争
- 9.7 調査員の管理
- 9.8 要約

第10章 調査データの収集後の処理

- 10.1 はじめに
- 10.2 コーディング
- 10.3 数値データのファイルへの入力
- 10.4 エディティング
- 10.5 重みづけ
- 10.6 項目欠測データの補定
- 10.7 複雑な標本に適した抽出分散の推定
- 10.8 調査データの文書化とメタデータ
- 10.9 要約: 調査後の処理

第11章 調査研究における倫理的・科学的公正性

- 11.1 はじめに
- 11.2 研究の実施基準
- 11.3 顧客対応に関する基準
- 11.4 一般の人々への対応に関する基準
- 11.5 回答者に対処するための基準
- 11.6 新たな倫理的問題
- 11.7 被験者の諸問題に関する研究管理上の実務
- 11.8 調査におけるインフォームド・コンセント規約に関する研究
- 11.9 調査員による改竄を発見し修正するための手続き
- 11.10 情報開示制限手続き
- 11.11 要約と結論

第12章 調査方法論に関するよくある質問と回答

- 12.1 はじめに
- 12.2 質問とその回答

第 1 章

調査方法論入門

An introduction to survey methodology

読者への覚え書き

読者はいまここで、社会や経済の世界に関連する情報収集に適した“調査方法論 (survey methodology)”という、一連の原理体系にふれようとしている。筆者らは、標本調査を設計し、実施し、分析を行い、また評価を行うことの面白さを述べる試みとして本書を書いている。本書を十分に理解するために各章に設けた仕掛けを用いて、この教材を記憶にとどめて欲しい。本書全体を通じて、読者は、図版、主要な基礎概念の例題、用語ノート、そしてこの分野の古典的な調査研究の主要な話題を示したコラムに気づくであろう。また、各章末には、その章の題材の理解度をテストするための演習問題を用意した。本書を理解する最善の戦略は、まず本書をひとつおりと通読し、次に各章を読みおえたときにコラムを読み返し、またキーワードを復習することである。

毎月、第 1 金曜日の前日木曜日の午前 8 時半、経済学者と統計学者の一团が、米国ワシントン DC、マサチューセッツ通り北東 2 番地の建物内にある、防音された無窓の部屋に入ってゆく。ひとたびこれらの関係者が出席すると、部屋の扉は閉められる。

部屋の中の面々は、米国労働統計局 (BLS : Bureau of Labor Statistics) の専門官である。彼らの仕事は、主要経済データの統計的分析を再吟味し承認することである。彼らは集められた数値を詳しく調べ、比較し、その品質を示す指標を検証し、異常・例外がないかを探し、さらにはその数値を説明する報道機関向けのドラフトの作成にその週を費やすのである。この報道機関向け資料は、数値がどう作られたかについて専門的知識がない人たちにとっても、理解しやすいように簡潔な言葉で書かれる。

翌日金曜日の午前 8 時になると、外部との接触を遮断された近くの米国労働省 (Department of Labor) 本館のモニタールームに、報道陣が集まってくる。そして米国労働統計局のスタッフがこの部屋に入ってきて、集まっている報道陣に結果を公表する。報道陣は、そのブリーフィングにもとづいてただちに配信用記事を用意する。きっかり 8 時半には、その記事を一齐に電子配信し、またときには編集者やプロデューサーに電話で伝達する。

ここで明らかになる統計量は、前月の失業率と前月に発生した雇用数である。公開

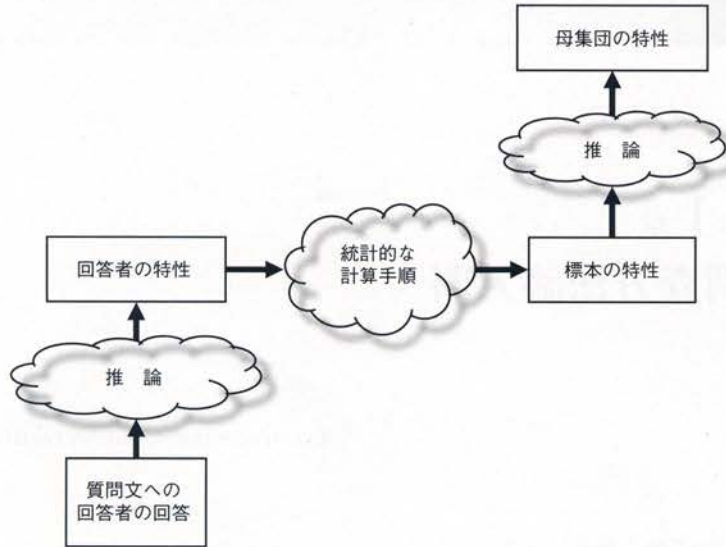


図 2.1 調査における推論の2つの種類

特性に関する推論を行う，ということである。そして，複数の回答者にもとづき算出した統計量を用いて，さらに大きな母集団の特性についての推論結果を導く。

以上の2つの推論段階が，以下にあげる2つの必要な特性の中核をなしている。

- 1) 得られた回答は，回答者の特性を正確に記述する必要がある。
- 2) 調査に参加する一部の人は，さらに大きな母集団の人々と類似の特性を保有する必要がある。

以上の条件のどちらも満たされない場合に，調査統計量は“誤差 (error)”の影響を受ける。ここで“誤差”とはいわゆる“間違い，誤り (mistake)”を意味するものではない。その代わりに，調査過程が求めるものと実際に得られるものとの“ずれ

読者対象

- 調査法を学んでいる学生・院生。
 - 各種調査に従事する実務家，研究者，専門社会調査士。
 - 調査を行う各種機関・研究所，大学図書館。
- [2011年6月刊]

きりとり線

【お申し込み書】 この申し込み書にご記入のうえ、最寄りの書店にご注文下さい。

調査法ハンドブック

A5判 528頁 定価12,600円(本体12,000円)
ISBN 978-4-254-12184-1 C3041

冊

取扱書店

●お名前 公費 / 私費

●ご住所(〒) TEL

朝倉書店

〒162-8707 東京都新宿区新小川町6-29 / 振替00160-9-8673
電話 03-3260-7631 / FAX 03-3260-0180
http://www.asakura.co.jp eigyo@asakura.co.jp

調査法

ハンドブック

大隅

昇
[監訳]



Survey Methodology

by

Robert M. Groves, Floyd J. Fowler Jr.,

Mick P. Couper, James M. Lepkowski, Eleanor Singer, Roger Tourangeau

調査法

ハンドブック

大隅 昇

[監訳]



朝倉書店

